

スギもヒノキもおおよそ50年くらいは成長させてから木材として利用される。植林の前後には山を整備しなければならぬ。地植え：・雄木や雌木の適切な切りや枝や葉などを撤去して、植林のためのスペースを確保して植林しやすいようにする。植付け：・40cm程度の苗木を手作業で植付けていく。畝で植え穴を掘って、横溝が十分土に埋れるように植えていく。1ha当たり3千本植える。下刈り：・植付けは3月頃に行われるが5月になると新しい草の芽が出てきて、放っておいたら8月頃には繁茂して苗木を覆い尽くして、苗木の多くが枯死してしまう。それを防ぐために植栽した年から5〜6年間下刈りが必要である。場所によっては年に2回必要である。雑草は梅雨時期から生い茂り、6〜8月にかけての暑い時期の作業で、森づくりとしては過酷で最もコストのかかる作業である。7年生以降は苗木も大きくなって下刈りは不要だが、ツル類が樹木に絡みつき、放っておくと樹木を枯らしてしまうのでツル切りに巡回しなければならぬ。豪雪地帯では積雪で苗木が倒れるので、雪起こしという作業も必要である。

除伐：・曲がった状態で育ってしまった木や、植栽木の成育に邪魔になるような雄木を取り除く作業も必要である。間伐：伐期齢の時期を迎えるまでは2〜3回の間伐も必要で、3千本植林したものを5百から千本の密度で、成長の良いまっすぐな木が残るようにその他の木を伐る(ある程度の密度で混み合っている状態で、苗木は細長く成長してまっすぐでいい木材ができる)。枝打ち：・さらに節の少ない美しい木材を作ろうとすれば枝打ちという作業が必要となる。我が国のスギやヒノキは枝が太くて、枯れても枝が落ちにくく、枝打ちをしないと、



大きな節がある木材になってしまう(山村に住む、ある森林学者が考えたこと「岩井吉彌参照」)。このように、木を木材として育てようとすると長い年月と多大な労力や費用がかかる。特に美しい木材にしようとすれば、輪をかけてコストをかけなければならぬ。我々が今、木を木材として使用できるのは、過去の植林に携わった方々の仕事の成果だ。真庭市の森林資源の現状は、森林面積は65,580ha(平成31年現在)で、そのうち2018年の真庭市の人工林(民有林)が約57%(33,824ha)、人工林のうち約72%が主伐期(おおよそ1950年代後半から1980年代後半にかけて植林された)を迎えており、全国的な傾向と同様に、本格的な利用期を迎えている。一方で主伐や再造林は進んでおらず、林齢構成がいびつになっている(2018年度調査)。主伐面積に対する人工造林率は直近でも4年間低位で推移している。簡単に言うと真庭の人工林では7割強が使える木に育っており、これからの伐った後の植林は進んでおらず、いわば少子高齢化の状態となっているということ。

真庭市としても再造林の実施を認めている。ところで過去の人々は木々を植林するとき、そこに何を託したのだろうか。木の生長と数十年後の自分自身や家族を思い浮かべたと想像したい。あるいは家族や親戚に、自分の植えた木を使って家を建ててもらいたい。或に、自分の植えた木を、少くも進歩していく将来を思い描いていたのかもしれない。では、我々は次の数世代に何を託すべきなのだろうか。例えば今から数世代先の人々は、我々から何を受け取るのだろうか。



# BeLIN Exhibition

10.29 sat - 11.7 mon (11.2 wed 休館) 9:00-17:00

GREENable HIRUZEN 2F 2Fスペース 入場無料

〒717-0602 岡山県真庭市蒜山上福田1205-220 開館時間 | 9:00~17:00(入館は16:45まで) 休館日 | 毎週水曜日

10.29 sat 10:30-11:30 美林トークショー

- (司会) 三原 鉄平 (岡山県立大学 デザイン学部 教授)
- 富永 大毅 (建築家:株式会社TATTA代表)
- 石井 裕隆 (真庭市林業・バイオマス産業課:課長)
- 河野 文雄 (合同会社わっしょいボヘミアン代表)

(お問合せ)info@maniwa.life 主催 | 合同会社わっしょいボヘミアン 協力 | 真庭市

## もう一度、森林から始める。木材を未来につないでいく。

BeLINは、ヒノキとスギの無垢材から生まれました。ヒノキ7:スギ3、真庭に生育する木々と同じ比率でできているパネルは、真庭の森林そのもの。この木材で、どんな未来を描くことができるか。それは、丁寧に育てられ製材された木の可能性をひろげることであり、木のまじり真庭のこれからの考えることでもあります。BeLINは、パネルをつなぎ合わせ、木の空間を自在に生み出すことができる木材です。ライフスタイルを拡張させると共に、美しい森林を持続させていく。そこには、森林、木材の仕事、木がそばにある暮らしを、もっと結びつけていきたいという願いが込められています。どこにいても、パネルの隙間から木漏れ日が降りそそぐ。これまで森林とつながりのなかった場所へも、木のぬくもりを届けることができる。BeLINは、丁寧に作られた木材を通して、もっとたくさんの人に喜びを届けられる可能性があることを問いかけてくれます。BeLINが、真庭の森林からあたたかいアイデアが生まれる、これからのよりよい材料となりますように。

